

JICA(国際協力機構)プロジェクト 本邦研修報告

今年5月からスタートしたJICAとの国際協力活動ですが、今回は、フィリピンの方たちが研修を受けに来日した様子をご紹介します。

<日程> 2009年9月4日(金)～17日(木)

<参加者> コアメンバーのガブリエルさん、ジュンさん、デビッドさんの3名は初日から参加。ファミリーウエルネスセンター代表リッチーさんは11日(金)から参加。

<研修の目的>

マニラ市の貧困層を対象に開かれるアパリミーティング開催のために必要なノウハウを習得すること。

<研修内容>

1週目は、東京上野にある日本ダルク及びアパリ東京本部において開催されました。古藤(ソーシャルワーカー)によるHIV等感染症に関するワークショップ、そしてアパリストッフとの今後の活動において必要と思われる情報交換がメインでした。

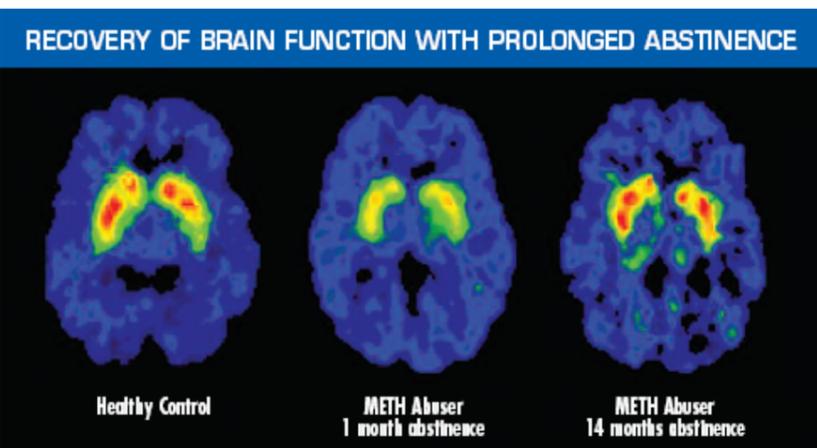
その他にも日本ダルクのデイケアの参加や、アパリ主催の家族教室にも参加しました。この研修期間中にちょうど開催されていた川崎ダルクフォーラムにも参加してきました。そこでは近藤恒夫がフィリピンから来たメンバーとして日本の人たちに紹介しました。そして東京ダルクの見学、山谷のドヤ街の視察も行いました。山谷ではNPO法人山友会と山友会クリニックの見学をし、そこでは日本の現状を知る上でも貴重な経験ができたと思います。

2週目からは群馬県藤岡市にある日本ダルク アウェイクニングハウスで行い、城間勇講師による「リカバリーダイナミクス 1」のワークショップを3日間開催しました。城間講師からはフィリピンのメンバーたちがともしっかりプログラムを実践されている方たちで、このプロジェクトのコアメンバーとして適切な人材なのではないかとコメントをいただきました。

1:リカバリーダイナミクスとは…依存症リハビリ施設のためのプログラムで、AAの基本テキスト「ビッグブック」の12ステップを「問題」「解決策」「行動計画」という三つの部分に分解し、それぞれを順番に達成すべき目標として定めています。実際には28回(1回90分)のセッションで小さな目標をクリアしていくもので、目標が明確に設定されているので、回復を確実に引き起こすことが可能です。

また、神田尚子講師によるヨガのワークショップでは、最初の30分は講義、後半の1時間は実際に身体を使った動きに取り組みました。ヨガの教えと12ステップが共通する部分を持っていることを知り、参加者全員が新しい発見をしました。12ステップで理解しにくい言葉を、ヨガの動きに当てはめ体感することで、より理解を深めることができます。日本の依存症リハビリ施設のプログラムにヨガを取り入れているところもあり、単なるリラクゼーション効果や運動不足の解消といったものではなく、とてもスピリチュアルなものだと説明していました。初めて経験したフィリピンメンバーからも大変好評でした。

この施設で共同生活をする中で、入寮者やスタッフとの交流の場が多く、日本の薬物依存症者の現状を理解するにはとても良い環境であったのではないかと思います。1日スケジュールがオフの日に、リッチーさんが持参した「脳のダメージについて」のパワーポイントを見せながら入寮者全員に講義を開いていただきました。入寮者・スタッフ約



30名がこのリッチーさんの講義に耳を傾けていました。その中に衝撃的な脳の映像が映し出されていました。左がその映像です。[左が正常な状態、中央が覚せい剤を止めて1ヶ月の状態、右が覚せい剤を止めて14ヵ月後の状態。約1年経つとほぼ正常に近づくけれども、ひとたび使用すればすぐに中央の状態に戻ってしまうそうです。]



成田空港に到着したフィリピンのメンバーたち



アパリ東京本部の前で



城間講師による「リカバリーダイナミクス」のワークショップの風景



神田講師によるヨガのワークショップ

また、藤岡での最終日には日本側とフィリピン側のプロジェクト関係者が一堂に介し、今後のプロジェクトの展開についてディスカッションを行いました。

<ディスカッションの内容>

次回の渡航は次回の渡航は2010年1月。日本からの渡航者3名。

マニラで薬物依存症の回復についてのフォーラムを開く。そこで地域の人たち関係者、本人、家族にアパリミーティング開催の告知をする。

コアメンバー、カウンターパートの人たちにフォーラム開催のための準備をしてもらう。タウン誌や政府の広報誌で宣伝する。

ミーティングで使うハンドブックは、ダルクで使っているものを英語とタガログ語に翻訳し、ファシリテーター用に編集する。デザインはダルクで使っているものと同じようにする。

ミーティング会場候補地となっているマリキナ市の保健所を先に開き、その後ケソン市タタロンにあるNGOの施設で開く。この二つの対照的な地域で試験的に開くことは比較検討できるという利点がある。タタロンはボランティア、マリキナ市は行政との関わりが強い、その比較が興味深い。

現地で活動するコアメンバーたちからボランティア保険のようなシステムがあれば加入したいとのこと。



お台場にて。フィリピンメンバー。東京では浅草、アメ横、東京タワーにも行きました。



フィリピンのメンバー
左からジュンさん、デビッドさん、古藤、リッチーさん、ガブリエルさん



リッチーさんによる「脳のダメージ」の講義。
通訳は施設スタッフの遠山



ディスカッションの様子
日本のメンバー 左から近藤、三浦、山本、遠山、右はジュンさん

<フェロシップ>

9月8日(金)はフィリピンメンバーのガブリエルさんが8年、ジュンさんが7年のバースデーだったので、藤岡の仲間たちとともにお祝いをしました。ケーキやプレゼントも用意され、仲間から祝福の一発芸の披露もあり、歌あり笑いあいの楽しいひと時でした。またDJブースを使い、ミラーボールに照明を当て、80年代のディスコを彷彿させるイベントもありました。14日(月)のお昼には、スタッフ+入寮者8名による琉球太鼓の披露があり、初めて見る太鼓の演舞に感激し、最後には太鼓を叩いてはしゃぐ姿も見られました。

<今後の予定>

先日フィリピンを襲った台風の影響を受けて、マニラ市、マリキナ市とも甚大な被害が出ています。特にマリキナ市は未だに家屋が水に浸かった状態だと報告がきています。次回の渡航は2010年1月17日~7日間を予定しています。その際に、無事フォーラムを開催することができるのか、そのための準備が順調に進むのか心配です。しかし、何とか実現に向けて一歩ずつ進んでいきたいと思えます。



高崎観音にて。
地元の女子学生と記念写真。



クリーン7年・8年のバースデー
おめでとうございます!



山梨県の富士サポートセンターにて
河口湖のほとりでのんびりと過ごしました。